

# フランス語E-ラーニング教材開発の試み

——文法ならびに仏検対策編——

柳 光子

愛媛大学法文学部

## Development of E-learning materials for French language education : Grammar and Preparations for Test in Practical French Proficiency

Mitsuko YANAGI

Faculty of Law and Letters, Ehime University

### はじめに

本稿は平成26年度「愛大G P」に採択され、筆者とモヴェ・エリック教員（共通教育センター）とで2年間にわたり取り組んだプロジェクト<sup>1)</sup>を振り返り、初年次のフランス語文法クラスむけに開発した教材と、実用フランス語技能検定試験の対策用に開発した教材とを中心に報告するものである。年度ごとのポスターセッションや報告書には書ききれなかった部分を補った総括でもあるが、会話クラス用に開発された教材については、次号への投稿により別途取り扱う予定であることをお断りしておく。

本稿では、プロジェクトの背景と目的を示したのち、柱となった取り組みを音声教材、仏検対策教材、時間外学習への誘導の順に振り返り、アンケート結果などを踏まえて成果の検証を試みる。そこから明らかになる利点と問題点を整理したうえで、継続とさらなる展開のための考察を加え、E-ラーニングによるフランス語教育の将来計画についても検討しておきたい。

### 1. E-ラーニング教材開発の背景と目的

共通教育科目の初修外国語「フランス語I・II」は、愛媛大学「学士基礎力」の一端である外国語の基礎的運用能力の養成を目的とするものであり、筆者はネイティブ教員とのペアクラスにおいて、相互に補完する効果的な授業を目指して専用テキストを作成するなどの工夫を重ねてきた。また、授業時間外にフランス語に触れる機会を受講生に持たせることを目的に、Blackboard や Yahoo!グループ

サービスを利用しての教材配信を手探りで実施してきた経験を踏まえ、愛媛大学での Moodle 運用開始の年から積極的な利用を行ってきた。FD講習会等で学ぶ以外には何の知識もない状態からの試みであり、文字通り「手探り」で始めたことであつたし、Webサイト作成の経験すらなかつた筆者にとっては、htmlタグを用いなければ改行も文字への着色もできないという当初の Moodle コンテンツ作成が、多大な時間と労力を要するものであつたことは言うまでもない。練習問題、高度な文法事項の解説、動画へのリンクを添えた文化紹介記事などを不定期に作成し、提供するのが関の山であつた。しかし、いちど作成した教材はそのまま、もしくは改良して次年度に再利用できるところがE-ラーニング教材の強みでもある。数年の蓄積が行われたあとには、次第に教科書を補う副教材としての形ができていった。

学生による授業評価アンケートや、「授業コンサルテーション」の結果を見ると、これらの工夫は概ね好評を得ており、受講生の学習意欲を高めることに一役買っているという手応えがあつた。その一方で「練習問題を増やしてほしい」という要望も依然として多く、平成25年度前学期の「授業コンサルテーション」では、文法クラスの98%が Moodle による時間外学習用コンテンツのさらなる充実を求めているという数字が示された。また、発音を授業時間外で確認し、反復練習するための音声教材を求める声も非常に多かつた。これを受けて、会話クラスを担当するネイティブ教員とも協議を重ね、教育デザイン室の協力のもと、フランス語を母語とする留学生数名を学生教育経費により雇用、音声教材の試作に踏み切つた。市販の教科書でよく

用いられている付録CDへの収録をおこなう代わりに、Moodle上で音声教材を視聴させる形をとったのであるが、後から思えば個人的にはこれがE-ラーニング教材開発を推進する上での本格的な出発点となったように思う。

音声教材を完成させ、オリジナル教科書を補完するものとして提供することに加え、練習問題を増やすなど受講生の要望に応じつつ新たなE-ラーニング教材を開発することを目指すプロジェクトが平成26年度の「愛大GP」に採択されたのを契機として我々の計画は新たな段階に入り、仏検対策用教材や会話実践力を養成する動画教材の開発が新たな目標に加わった。受講生の語学力養成を主目的としたものであることは言うまでもないが、スマートフォンなどを使って気軽に利用でき、時としてゲーム感覚で取り組めるため着手しやすいE-ラーニングへの取り組みを定期的におこなうことが、学生の授業時間外学習を増やし、長期間にわたってコツコツと学び続ける姿勢の涵養に繋がるのではないかと期待もあった。初年次の学習者を主な対象とする共通教育において、「学びへの習慣づけ」はきわめて重要であり、喜んで教材を利用する学生だけでなく、学習意欲の低い学生にも利用させるにはどうすればよいかということが2年間のプロジェクトを通じての難題ともなった。

## 2. 音声教材の開発

フランス語の初学者が、既知の英語と比べて難しいと感じることの筆頭に挙げられるのが、発音やスペルの読み方である。実際には英語と比べてそれほど発音が難しいわけでもなく、またスペルの読み方は非常に規則性が高く例外が少ないため、半年ほどの学習でマスターすることが十分に可能であるが、なまじ英語という既習の外国語と同じアルファベットが用いられるだけに、初学者が戸惑いを感じるのも無理からぬところではある。市販の教科書の大半が

例文などを収録したCDを付録にしているのは当然とも言えるだろう。筆者が音声教材の提供方法として最初に想定したのも、CDの作成と配付であった。

前述の通り、これをMoodle上での提供とする構想は、教育デザイン室スタッフからの提案、それを受けての教員間での協議から生まれ、具体化していった。「愛大GP」により制作に費用をかけることが可能になったため、単に音声をMoodle上で聞くだけでなく、スライドショーを視聴する形式を選ぶことができ、学習者は「いまどこが読まれているのか」を画面上の文字が着色されていくのを目で追うことにより容易に認識できるようになった。学生アルバイトによるイラスト作成も、文法事項や例文の理解を助けることに加え、視聴するコンテンツを魅力的なものに変えることに役だったと思う。

音声の収録は総合情報メディアセンター内のスタジオで数日をかけておこなわれた。フランス語を母語とする留学生を数名雇用したことも既に述べたが、これは留学生を増やすことに力を注いでいる本学の特徴を活かす試みであると同時に、多くのネイティブによる発音に早くから慣れられるという教育上の効果を狙った措置でもあった。筆者自身にも憶えがあるが、初学者にとってネイティブの声といえはまず授業を担当する教員の声であり、まじめに授業に出席していればその発音や発声には慣れるものの、いざ現地へ赴くと「聞き慣れない」声の聞き取りに苦労することが多い。教室で教育的配慮とともに発せられる言葉よりも現地の生の言葉が聞き取りにくいのは当然のことではあるが、身近に接する教員の声だけに慣れていて、という学習者側の問題も無視できない。仏検での合格を目指すにしても、できるだけ早い段階から、なるべく多くのネイティブの発音・発声に触れておくことが肝要なのである。快く協力してくれた留学生の皆さんにこの場を借りて改めてお礼申し上げたい。



音声教材（再生時、発音されている部分が黄色に反転していく）

### 3. 「仏検」対策教材の開発

オリジナル教科書に掲載している文法事項や「練習問題」は、授業時間内で無理なく扱える量にとどめられているため、補足説明や追加の練習問題は従来から Moodle 上での提供としており、「愛大GP」によるプロジェクト期間中にも増強に努めたが、まったく新たな試みとして取り組んだのが「仏検」と通称される「実用フランス語技能検定試験」対策用の教材開発である。仏検の詳細についてはここでは割愛するが、「英検」のフランス語版と捉えて概ね差し支えないだろう<sup>2)</sup>。春季6月と秋季11月の年2回しか受験機会はないが、共通教育の「フランス語」を通年で受講する学生の場合、まじめに勉強していれば1回生の秋季に5級、2回生の春季には4級に合格することもさして困難ではない。2年目以降も学習を続ける学生では、3回生までに3級、4回生では準2級や2級に合格する例もある。客観的に実力を測る指標となり、文科省が後援する資格試験でもあり、学習意欲を高めるにも有用なものである。できるだけ受験を奨めたいのは山々だが、検定料がかかることでもあり、また市販の参考書などはあるものの、学生がどの級を受ければよいかを的確に助言することは難しい。友人も受けるからと受験した級で不合格になり、それきり受験しなくなってしまいう例も珍しくなかった。効果的な受験対策ができ、受験級を決める参考にもなる教材を提供で

きないものかと考えた所以である。

この目的に最も適しているのは、模擬受験を可能にする、過去問を利用した教材の作成ということになるが、当然のことながらそこには著作権の問題が発生する。調べてみると問題をそのまま Moodle 上に掲載することはもちろん、形式を真似て独自の問題を作成することも許されないということが分かった。万事休すと思われたが、思い切って仏検の事務局に事情を詳しく伝え、使用許可を得る交渉を試みることにした。Moodle の仕組みを説明し、授業に登録している受講生にしか閲覧・利用できないこと、コンテンツのダウンロードはできない形に設定できること、学生が適切な受験級を選ぶ参考になること、等々を事細かに説明し、プロトタイプを添えて許可を求めたのである。事務局からは「業者からのコンテンツ化の申し入れはすべて断っている。大学からの申し入れは前例がなく、すぐには回答できないが、理事会の審議事項として検討する」との返事が届き、2ヶ月ほどたって条件つきで許可が下りた。予想されたいくつかの条件を明文化した誓約書のフォーマットが準備されており、予想外の条件として「団体出願」制度を愛媛大学に導入することが求められた<sup>3)</sup>。

個人情報扱うため面倒な手間も生じる「団体出願」ではあるが、のべ10名を超える出願者がいれば検定料の割引が受けられ、教員が取りまとめて受験票を送付することで各学生の手間や手数料が多少省けるなど、学生にとっての



「仏検」模擬受験用教材トップページ



合否判定用のフィードバック設定画面

メリットはある。また受験生のデータが教員のもとへ報告されるため、指導の参考になるという利点もあって、むしろ導入に踏み切る好機と捉えることができたうえ、いざ許可を得てみると、仏検事務局からは非常に親切な計らいをして頂いた。E-ラーニングに対応するための最小限の問題改変が容認されたうえ、問題冊子のほか、聞き取り・書き取り用の音声資料まで無償で提供され、実質的には誓約書の送料くらいしか経費の負担はない状態で、「過去問」掲載をはるかに超える「模擬受験」教材の開発が実現した。Moodle 上で聞き取り試験も含めた完全な模擬受験ができ、自動採点により正確な合否判定が受けられ、解説を参照しつつ反復練習することもできる。

平成26年度秋季には5級に挑戦し合格する1回生が現れ、平成27年度秋期にもこれに続く1回生がいた。2回生以上の学生を対象とする法文学部の授業用に4級、3級の模擬受験教材も作成し、受験者・合格者とも予想以上にのびたため、平成27年度には準2級の模擬受験もできるようにした。合格率の全国平均に対し、本学での「団体出願」者の合格率が高いことは、E-ラーニング教材開発により適切な受験級を選択できた成果であると言えるだろう<sup>4)</sup>。

#### 4. 時間外学習への誘導

苦勞して作成したE-ラーニング教材も、学習者から利用されなければ意味をなさない。「愛大G P」のプロジェクト以前の取り組みにおいても、積極的に利用し、拡充を望む学生がいる一方で、まったく関心を示さない学生も一定数おり、提供する側の労力に見合うだけの成果があがっていると言えるのかどうかと自問するのが常であった。「愛大G P」申請にあたり、時間外学習を習慣化させることを目標のひとつと定めたこともあり、多くの学生に継続的な利用をさせる工夫が改めて必要となった。

簡単確実な方法としては、成績評価にE-ラーニングによる時間外学習の実績を組み込むことが考えられるが、強制されて仕方なく利用している状態では、時間外学習が習慣づけられるところまでは期待できない。このため、受講生が積極的に、できることなら多少なりとも喜んでMoodle コースを利用するよう誘導できないものかと考えてみた。

筆者の1回生を対象とする「基礎フランス語」の授業においては、週1回のペースで文法の基礎を教えていくのだが、時間中にあの手この手で刺激を与えるように努めてもなお、大学生になったばかりの学生には、文法を学びつつ集中力を90分のあいだ保つのが困難であることが多い。そこで「ハーフタイム」と称する5～10分を設け、授業の前半で学んだ文法事項に関わりのある歌詞や台詞が含まれる歌や映像を視聴する時間としている。学んだ文法事項を実例により確認させる意味もあるが、気分転換や眠気覚ま

The screenshot displays four Moodle course topics:

- トピック 14**: 7月15日の授業 (第5回), La Marseillaise?, 復習 (疑問代名詞), 練習問題 (疑問代名詞), 単語チェック・名詞②+形容詞②, 投票? 国民投票?
- トピック 15**: 7月22日の授業 (第6回), Photo souvenir?, 練習問題 (所有形容詞と指示形容詞), 単語チェック・動詞②+副詞・疑問副詞, 前置詞について, 復習&練習問題 (命令文), 教科書 p.14 練習問題の解答と解説, 建築家ル・コルビュジエ
- トピック 16**: 7月29日の授業 (第7回) ~第2クォーター最終回~, 期末試験です。いつもの教室とは異なる教室で実施するので気をつけてください! 今のところ共通講義棟B (法文本館の東側), 402を予定していますが、変更があった場合、ここに掲載します。 期末試験について, アンケート (この Moodle コースについて), アンケートへのご協力、ありがとうございます! (心), 参考にして後学期の準備を進めていきますね。 9月末日まで追加で回答できますので、書き忘れたことなどあったら、ぜひどうぞ。
- トピック 17**: 夏期休業中にも Moodle は使えます (^^), ★ 仏検のご案内 ★, 2014年度春季仏検5級問題, 直近の問題は利用許可がおりないため、一昨年度の問題ですが (順次、新しい問題を加えていきます) 毎年ほぼ6割の正解率で合格です。これを Moodle 上で模擬受験することで、実際の試験の合格基準点に基づいた合否判定もできます。 5級は1回生でじゅうぶん合格可能なので、ぜひチャレンジしましょう! (心), 期末試験の解答例, Pokémon GO フランスでもリリース

Moodleコース(各回2番目の項目が「ハーフタイム」関連情報、最後の項目が主に時事的な話題)

しと割り切って楽しんでいる学生が多く、それはそれで後半の授業に集中できるのならば無意味ではないだろう。「授業コンサルテーション」においても、学習意欲を高めるものとしてこの「ハーフタイム」を挙げる学生が非常に多い。ただ音楽を聴かせるだけ、映画を見せるだけならば楽だが、単なる休憩時間にしないためには、歌詞や台詞を書き抜き、文法事項の解説を加えるための準備が必要で、

実はかなり手間暇がかかっていることを学生の多くが理解してくれるからこそ続いている工夫でもある。「ハーフタイム」によってフランス語圏の文化そのものに関心を抱く例も見られ、ここを充実させたいのは山々だが、あまり多くの時間を割くわけにはいかないというジレンマもある。そこで「ハーフタイム」関連の項目を Moodle コース上、授業回ごとに設け、動画サイト等へのリンクとともに情報を掲載するようにした。授業内の「ハーフタイム」で関心を持った学生は授業時間外にこれを閲覧し、あるいは文法事項を確認、あるいは動画等を楽しむ。動画を鑑賞するだけであったとしても、授業時間外にフランス語に接することは無意味ではないだろう。

これと並んで、時事的な話題を中心とするコンテンツも原則として毎回ひとつは提供するようにした。「カンヌ映画祭」「ツール・ド・フランス」など、毎年すこし手を加えるだけで使い回せる話題もあるが、「パリ同時多発テロ」「探査機の彗星着陸」「ノーベル文学賞」など、ニュースと同時に作成しなければ面白くない例も多く、時間と労力がかかるが、E-ラーニング教材が作りっぱなしのものではなく、日々新たに提供されているという実感を学生に与える役にはたっているものと思う。コラム的にとりあげるだけでなく、1回生には敷居が高いことは承知の上で、関連Webサイトへのリンクを掲載し、少しでも自分で情報源に当たってみよう誘導する。本稿を書いている平成28年度の例になるが、「国民投票」ならばフランス大使館、「国立西洋美術館の世界遺産指定」ではル・コルビュジエ財団、「ポケモンGO」はゲーム攻略サイト、のように、日本語でも閲覧可能であるか、画像が多く感覚的に理解しやすいリンク先を吟味した。

学生を引きつけるこれらの工夫はアンケート結果等を見る限り一定の効果をあげているが、文法学習のみを内容とする本来のコンテンツにも工夫の余地がある。たとえば「テスト」として授業で取り組ませた課題を、授業時間外に「練習問題」に切り替え、再挑戦することを推奨する。「テストの点が低かった場合も、繰り返し挑戦し高得点をあげていれば、その努力は評価する」と通知した場合、多数の学生が授業時間外に再挑戦し、その多くは満点がとれるまで何度もチャレンジしていた。1名ごとの取り組み状況を把握するには手間暇がかかるが、1回きりの評価ではなく、

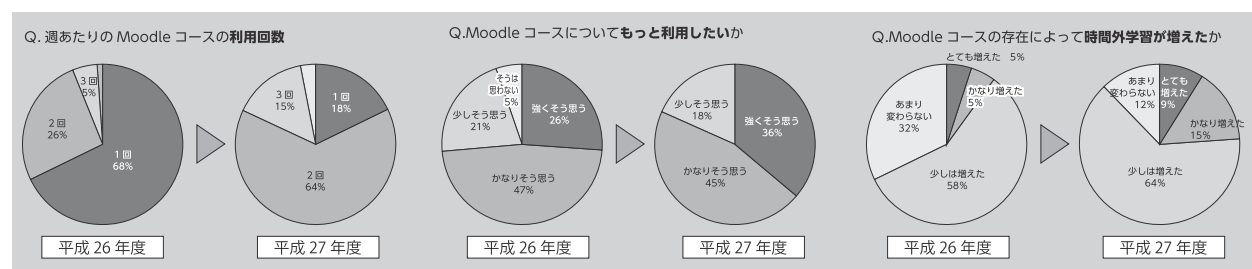
「挽回できるチャンス」があることが学習意欲を高めたとする意見も寄せられており、要するにE-ラーニングであっても自分の学習が機械的に処理されるだけでなく、教員が個別に見てくれているという実感を学習者に与えることが肝心と言えるだろう。

## 5. アンケート結果から

以上の取り組みを主軸として開発し提供してきたE-ラーニング教材について、利用者である受講生たちがどのように評価したかをここで簡単に振り返っておきたい。「愛大G P」に採択されたプロジェクトの実施期間内に実施したのは、共通教育の全科目に対しておこなわれている「学生による授業評価アンケート」のほか、各年の前学期に受けた「授業コンサルテーション」、学期ごとに Moodle のアンケート機能を利用しておこなった独自調査の3種類である。紙数の関係からこれらをここで網羅的に取り上げることは難しいため、Moodle による独自のアンケートのなかから、特に重要と思われる項目をいくつか抜き出して検討することとした。

1年目と2年目で目立った変化が見られたのは、下にグラフ化して示した3項目である。週あたりの Moodle コース（フランス語文法クラス）の利用回数は、平成26年度では半数以上の学生で「1回」であったが、平成27年度には「1回」の学生は全体の5分の1以下となり、「2回」「3回」の割合が大きく伸びた。「Moodle コースをもっと利用したいか」を問う項目では、両年とも肯定的な回答が大半を占めているとはいえ、平成26年度には見受けられた「そうは思わない」の回答がゼロとなり、肯定的な回答の比率が伸びている。さらに、「Moodle コースの存在によってフランス語の学習に限らず授業時間外学習が増えたか」に対して、平成26年度も「少しは増えた」まで含めれば全体の約7割が肯定的な回答であったが、平成27年度には「とても増えた」「かなり増えた」が全体の4分の1、「少しは増えた」まで含めれば肯定的な回答が8割以上にまで達した。

これらの結果から、E-ラーニング開発の試みが全体としては奏功したとみて良いのではないかと考えられるが、一方で少数とはいえ積極的なE-ラーニング教材の利用を



Moodle による独自アンケートの結果推移

していない学生もいる。E-ラーニングへの取り組み状況をボーナスポイントとして成績に反映させることをシラバスに明記してみたが、それでも一定数は利用に至らず、しかもボーナスポイントを必要とする学生に限って、そのチャンスを放棄しているという実態も改めて浮き彫りとなった。費用と労力を投じて作成した教材が十二分に活用されるようにする手だてを、引き続き模索する必要がある。

なお、1年目の後学期に実施した独自アンケートの結果でもっとも驚かされたのが、「時間外学習にあたり、紙媒体での練習問題（冬休みの課題）とE-ラーニングの練習問題のどちらが好きか」を問う項目への回答であった。E-ラーニング教材の開発に本腰を入れていた筆者としては、「E-ラーニングが好き」という結果が出ることを内心期待していたのであるが、結果は「E-ラーニングのほうがかなり好き」5%、「E-ラーニングのほうがやや好き」32%、「どちらも変わらない」16%、「紙媒体のほうがやや好き」42%、「紙媒体のほうがかなり好き」5%であった。それぞれの長所短所があるのは当然のことであるが、「紙媒体のほうが確実に提出できていることが分かって安心である」などの意見が寄せられたことから、E-ラーニングへの不安感を抱く学生が多いのだろうと推測された。特にこの年は前学期・後学期ともに Moodle システムのトラブルにより短期間だが使用不可能になる事態が起きており、学生たちが不安に感じたのではないかと思う。2年目にはそうした問題は起きず、E-ラーニングに不慣れな1回生への導入指導を徹底し、各自の学習記録は定期的にチェックし把握していると強調した結果、僅かながらE-ラーニングへの抵抗感は減ったように思われる。しかしながら、この年も「E-ラーニングのほうがかなり好き」12%、「E-ラーニングのほうがやや好き」21%、「どちらも変わらない」21%、「紙媒体のほうがやや好き」27%、「紙媒体のほうがかなり好き」18%という結果であった。紙媒体の練習問題は教員が赤ペンで添削しコメントを添えるため、丁寧に指導されている実感が得られやすいのは間違いない。E-ラーニングを拡充しつつ、作文など紙媒体に向けた問題については従来の方式を維持していくことが望ましいのだろうと思われる。

## 6. 今後の展望

E-ラーニング教材の開発・提供が学習者の意欲と学力を高めるうえで有用であることは2年間の取り組み結果から明らかになったと考えてよいと思うが<sup>5)</sup>、Moodle コースには不便な点もある。最大の問題は、学期ごとにコースが終了してしまい、「過年度コース」の閲覧は申請により可能ではあるものの、本学のフランス語の学習者が常に参照できるわけではないし、教員は学期ごとに新たなコースを作成しなければならない点ではないだろうか。コンテン



学習支援 Webサイトのトップページ(タブレット端末使用時)



スマートフォンで閲覧した場合のメニュー表示

ツのインポート操作により、再利用できるものも多いが、細かい調整が必要となり、かなり手間がかかる。クォーター制への移行により、「修学支援システム」からのコース作成依頼のままでは1年で4つものコースに分かれてしまい、それではあまりに不便だと困惑させられたが、この問題は第1・第2クォーター、第3・第4クォーターの統合を教育デザイン室に依頼し、これに応じて頂けたため、とりあえずは解決している。

こうした問題を踏まえ、学習者が煩雑な操作なしにいつでも参照可能な情報提供の場とするため、「愛大G P」に採択されたプロジェクトの終盤で、愛大生向けのフランス語学習支援 Webサイトを制作、2016年2月に公開した<sup>6)</sup>。授業関連情報、語学研修・交換留学案内および体験記、仏検案内、フランスのメディアを視聴できるサイトや無料公開されている学習サイトへのリンクなど、受講生から要望の多かったコンテンツを提供している。

今後も Moodle コース、学習支援 Webサイトを車の両輪としてE-ラーニング教材の開発を継続・拡充しつつ、さらなる展開として協定校をはじめフランスの大学が提供しているE-ラーニング教材の利用や、Skype等を介しての現地との交信を伴う教育をめざし、実現する方策を模索中である。こうした新規の取り組み内容を含めて平成28年度「愛大G P」への申請をおこない、採択されたことで、主として初年次の学習者向けであったフランス語E-ラーニング教材の開発は、留学や研修を希望する上級者まで対象に含めたものへと新たな段階を迎えつつある。また、E-ラーニングを活用することにより、将来的には反転授業を一部導入できるのではないかとこの予想のもと、関連するFD講習会・講演会などに参加し、こちらも試験的な教材作成を準備中である。準備と管理に多大な時間を要するE-ラーニングであるが、多様な使い方ができ、相応の効果が期待できることは確実であると2年間のプロジェクトを通じて実感することができた。今後も新たな情報を収集しつつ、いっそうの成果が得られるよう努めたい。

## 註

1) プロジェクト名は、共通教育科目「フランス語」時間外学習用 E-ラーニング教材の開発。平成26年度愛媛大学教育改革推進事業（愛大G P）種目3に採択され、平成26年度に447千円、平成27年度に475千円の配分を受けた。

2) 仏検については、(公)フランス語教育振興協会のWebサイトに詳しい情報が掲載されている (URL: <http://apefdapf.org>)。

3) 誓約書に掲載された諸条件は以下の通り。

1. 作成する教材は、授業の範囲内で受講者に無償で提供し、他への譲渡・転売等は一切行いません。

2. 作成する教材は、授業の正規履修者のみが閲覧・使用できるものとし、外部には非公開とします。受講者による第三者への教材の譲渡や貸借は固く禁止するとともに、そのような行為が発生しない環境を整えます。

3. 教材作成にあたっては、授業実施の開始期から起算して1年以内の過去問題は使用しません。

4. 過去問題の問題内容および設問文は、その原文を尊重し、変更を加えずに引用します。ただし、教材の使用環境に適応させるための加筆を適宜行うことがあります(原文「マークしてください」に対して「マーク(クリック/選択)してください」とする等)。

5. 過去問題の引用にあたっては、大問ないし設問ごとに過去問題の出典年度・季を明示します。

6. 作成した教材の使用期間は、本誓約書にもとづく授業実施の開始期から3年以内とします。

7. 作成した教材はその見本を1部、電子媒体により貴協会に提出します。

8. 教材の範囲内で、仏検の実施日程・出願期間等を明示するとともに、公式ホームページへのリンク等で仏検に関する情報を受講者に提供します。また、団体出願制度を活用し、受講者への仏検受験の奨励を図ります。

4) 2015年春季の団体出願者13名(5級1名、4級4名、3級4名、準2級1名、2級1名)の合格率は、84.6%で、受験者総数が少ないとはいえ、合格率の全国平均が5級84.5%、4級68.2%、3級65.9%、準2級53.6%、2級32.9%であるのに対し、高い数字を残している。

5) E-ラーニング教材開発によって受講生の学力が伸びたかどうかを判定することは難しいが、少なくとも定期試験において成績が良好であること(秀または優の学生が多く、不可はゼロ)、「仏検」を1回生のうちに受験し合格する学生が出現しており、2年生以降には4級~2級の合格者が出ていることから、まずは望ましい傾向にあると判断できる。

6) 筆者とモヴェ・エリック教員とで運営している愛媛大学フランス語学習支援 Webサイト (URL: <http://afa.ll.ehime-u.ac.jp>) は「愛大、AFA」で検索可能。アンケート調査によりスマートフォン等での利用が多いことが予想されたため、レスポンスWebデザインを採用した。